

JARL に苦言

JJ1SXA/池

約1年前、「JARL に疑問」という記事(2013年8月12日記)を書き、その後、2013年9月2日付けで、JARL 宛に質問状を提出、同年9月4日付けの、会長名による回答書(会長公印の押捺あり)を受け取りました。

一部抜粋で転載します。

前段略…JARL としてもアマチュア無線に宗教や政治を持ち込まないという信念には変わりありません。…

中略…今般の社会情勢やアマチュア無線をとりまく環境の変化も踏まえて、今一度初心に戻りハムフェアの出展内容に関することを見直す時期がきているのではないかと考えます。

つきましては、実行委員会においても出展基準の見直しも視野に入れながら検討していただくようお願いいたしました。

後略…抜粋転載終わり(原文のまま)

至極当たり前な内容ですが、果たして、この意向は反映されているのか？

「〇〇九条の会」や「九条の会〇〇」等について、政治的に中立であるべき国の機関は当然のこと、地方自治体においても扱いに腐心しているところです。

一例を挙げると、

…千葉県白井市と同市教育委員会は「行事の共催及び後援に関する規程」を改定、これまで「後援」を承認しない基準としていた「政治的目的を有するもの」を、「政治的色彩を有するもの」に改めました。

また、「政治的に賛否等の議論が分かれている特定の政策を支持しない」ことなどを、新たな承認基準に盛り込みました。

…これは、「しろい・九条の会」の講演会を市が後援したことを問題視したためです。

JARL 主催のハムフェアは、総務省、文科省等が後援しています、それぞれ、「総務省後援等の承認取扱要領」、「文部科学省後援名義等の使用許可申請について」に基づき後援しているところです、「省の信用を失墜させることのないよう」とか「後援名義等の使用を許可すべきでない特段の事情がないこと」という条項があります。

前記回答書抜粋は、「アマチュア無線家九条の会」が、ハムフェア会場内にブースを確保し、アピールを行っていることに関する質問書の回答ですが、出展基準の見直しは行われた様子はありません、今年も、相変わらず、ハムフェア会場内に、「アマチュア無線家九条の会」のブースが割り当てられています。

「アマチュア無線に宗教や政治を持ち込まないという信念には変わりありません」との文言、「出展基準の見直しも視野に入れながら検討」の文言は有言不実行のそりしは免れません。

前会長稲毛氏は、「アマチュア無線家九条の会」のメンバーとして名を連ねていますが、新執行部も決まったことでもありますので、新会長の長谷川氏に、メールで意見を求めたが、返信は、本人名では無く事務局から届きました。

内容は、私のメール内容は吟味した様子は無く、木で鼻をくくったような返事、大変失礼では無いかと感じました、会長職は多忙かも知れませんが、JARL にとって重要な内容を含んでいる筈、尤も、そう思っているのは私だけで、別の見方では、重要でも何でも無いとの判断かもしれません…

これに対し、返信を送りました(当然事務局・総務宛)、その中で、「アマチュア無線家九条の会」は政治的団体では無い、「憲法 9 条を守ろう」の幟や、ポスターでアピールする行動は、政治的活動では無いというのが、JARL の正式見解ということですねと念を押しておきましたが、これに対し返信が無いという事はその通りと認めたと言うことです、然しその判断は、現代の常識から大きく乖離するものです。

果して、本当にそれで良いのか？大いに疑問です、総務省・文科省に、同内容(政治的団体では無い、政治的活動では無い)を正せば、同じことを言うか？

言うわけは無いだろう、そんなことで、後援を取り消されるなどという不名誉なことになり、その後 5 年間後援が無い(後援の基準に書いてある)などの事態になったら、会長以下理事はどのような弁明をし、どのような責任をとるつもりだろうか。

JARL は、「アマチュア無線に政治を持ち込まない」、「政治的に中立」を謳うのであれば、出展基準に、出展希望のクラブには、「政治的色彩を有さないもの」、「政治的に賛否等の議論が分かれている特定の政策を支持していないこと」等の条件を盛り込んで当然、それが無くて、実行委員会は出展クラブは出展基準に基づいて厳格に審査しましたなどと言っても、「馬鹿馬鹿しい、ちゃんちゃらおかしい」としか言いようが無い、出展基準が不備だから、指摘しているのだが、見直すと言いながら、基本的な大事なことがわかっていない、それともそんな条件を盛り込むことができない理由があるのか？あるなら示してもらいたい。

「変なクレームをつけるな」などとの判断では無く、JARL の健全な発展のために何が問題なのか、真剣に考えるべきで、問題意識が欠如しているとしか言いようが無い。

選挙違反その他で、裁判を抱えることになるのは、全て問題意識の欠如からだろう、裁判費用で大事な財源が失われるのは、会費を納入する会員にとっては大迷惑だ。

ここは、禪を締め直して、問題の本質をしっかりと把握して問題解決に当たってもらいたい、それで無ければ JARL の未来は無い、会長以下理事は JARL のために働くとの意思の基に立候補し選ばれたのだ、偉くなった積りで踏ん返り返っているのでは無く、真剣に働いてもらわなければ困ると思うのは、私だけでは無く、会員の多くが思っているのでは無からうか。

(19.Jul,2014 記)